

令和7年
2025年

4月11日
金曜日

第11690号

食肉速報

— THE DAILY MEAT NEWS —

昭和51年5月19日
第三種郵便物認可

購読料（前納）
年間 82,080円
（税込み）
6カ月 42,120円
（税込み）

本紙は関連企業・団体との
タイアップ企画記事を含みます

【発行所】株式会社食肉通信社
<https://www.shokuniku.co.jp/>

東京支社
〒101-0021 東京都千代田区外神田2-14-10
TEL03-6206-0929 FAX03-6206-0928

大阪本社
〒550-0005 大阪市西区西本町3-1-48
TEL06-6538-5505 FAX06-6538-5510

九州支局
〒812-0029 福岡市博多区古門戸町3-12
TEL092-271-7816 FAX092-291-2995



「Taste the Wonders of Australia」が開催された……P2～3

- ▶ 農業・食料関連産業の国内生産額は、124・7兆円で全経済活動の1割……P2
- ▶ 「Taste the Wonders of Australia」オーストラリアの食とワインの魅力を訴求……P2～3
- ▶ 大阪・関西万博の全容を報道陣に公開、培養肉など「ミライの世界」をPR……P3
- ▶ 令和6年度野生鳥獣肉の衛生管理等に関する実態調査、ガイドラインの平均順守率0・5ポイント増……P4
- ▶ JPPA、24年度養豚農業実態調査報告書・優良事例調査報告書を公表……P5
- ▶ 第3回IFFA主催食肉加工品コンテストが日本で開催、出品製品を募集……P5
- ▶ 協和食品が事務所を移転……P5
- ▶ 全国食肉学校が6月12日、13日、馬事畜産会館で基礎セミナーを開催……P6
- ▶ チリ、米国追加関税に農林水産物への影響警戒……P6
- ▶ 増収増益達成し純利益は過去最高に、ライフの25年2月期決算……P6
- ▶ 丸大食品、宮城に東日本エリアの生産拠点、ミートサプライの新工場竣工……P7
- ▶ 米国農務省、停止状態の中国向け食肉輸出認可施設の登録更新を公表……P7
- ▶ [輸入牛現物相場]……P8
- ▶ [ブロイラー市中現物相場]……P8
- ▶ [資料]日本食肉流通センター週間市況〈和牛・交雑牛・乳牛チルド〉……P9
- ▶ [東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数]10日……P10
- ▶ [各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場]10日……P11

注目のヘッドライン

農業・食料関連産業の国内生産額は、 124・7兆円で全経済活動の1割

農水省が発表した令和5年農業・食料関連産業の経済計算によると、5年における農業・食料関連産業の国内生産額は、前年に比べて7・9%増加し124兆6,926億円となった。

…詳細はP2

大阪・関西万博の全容を報道陣に公開、 培養肉など「ミライの世界」をPR

…詳細はP3

りんご和牛
信州牛
登録商標 第1394040号

信州プレミアム牛肉
登録商標 第5282895号 第5282894号

信州牛生産販売協議会

国産牛豚内臓肉、チルドビーフ、チルドポーク卸売

健康と食生活を演出する
ビセラル株式会社

〒123-0865 東京都足立区新田 2-8-12
営業一課 / ☎ (03) 3919-2929 FAX (03) 3919-2930
総務 / ☎ (03) 3919-2980 FAX (03) 3919-2941

<http://www.visceral.co.jp>

農業・食料関連産業の国内生産額は、124・7兆円で全経済活動の1割

農水省が発表した令和5年農業・食料関連産業の経済計算によると、5年における農業・食料関連産業の国内生産額(概算値)は、前年に比べて7・9%増加し124兆6,926億円となった。これは全経済活動(内閣府「国民経済計算」)の10・8%を占めている。

部門別にみると、農林漁業は13兆2949億円と全体の10・7%を占めており、食品製造業は40兆3204億円(構成比32・3%)、関連流通業は38兆8500億円(31・2%)、外食産業は26兆6088億円(21・3%)となった。主な部門別にみると、農林漁業については、米や野菜、鶏卵、水産物の価格上昇により生産額が増加したことなどから全体として4・7%増加。食品製造業については、菓子類や清涼飲料の生産額が増加したことなどから全体として4・4%増加。関連流通業については、卸売業のマージン額が増加したことなどから6・9%増加。外食産業については、新型コロナウイルス感染症で落ちこんだ外食支出が回復しつつあることなどから19・3%増加した。

食品製造業のうち、生鮮加工品は6兆3725億円(前年比5・4%増)、加工食料品は24兆6863億円(3・4%増)。このうち、食肉は2兆9272億円(5・

8%増)、畜産食料品3兆6725億円(1・0%増)、冷凍調理食品やレトルト、総菜・弁当などを含むその他食料品は7兆472億円(3・1%増)となった。

農業・食料関連産業の国内総生産(国内生産額から中間投入〈生産のために投入された財・サービスの費用〉を差し引いた付加価値額、概算値)は、外食産業の国内生産額が増加したことなどにより、前年に比べて10・0%増加し、54兆6337億円となった。これは全経済活動(国内総生産=GDP)の9・2%を占めている。

部門別にみると、農林漁業は5兆950億円と全体の9・3%を占めており、食品製造業は13兆9349億円(構成比25・5%)、関連流通業は25兆4748億円(46・6%)、外食産業は8兆3179億円(15・2%)となった。

食品製造業のうち、生鮮加工品は8702億円(前年比4・5%増)、加工食料品は7兆9844億円(4・0%増)。このうち、食肉は3650億円(6・0%増)、畜産食料品9432億円(1・2%増)、冷凍調理食品やレトルト、総菜・弁当などを含むその他食料品は2兆2185億円(3・2%増)となった。

「Taste the Wonders of Australia」 オーストラリアの食とワインの魅力を訴求

オーストラリア・フード&ワイン・コラボレーション・グループは9日、記者発表会「Taste the Wonders of Australia～オーストラリアの魅力を味わう」を東京都内で開催した。発表会には、在日豪州大使館のジェームス・ストローン農務担当参事官をはじめ、マイケル・クロウリーMLA豪州食肉家畜生産者事業団マネージングディレクター(写真)らが登壇し、豪州の食とワインの魅力を訴求した。

オーストラリア・フード&ワイン・コラボレーション・グループは「MLA」「デーリー・オーストラリア」「ホーティカルチャー・イノベーション・オーストラリア」「シーフード・インダストリーオーストラリア」「ワインオーストラリア」の五つの業界団体で構成され、

これまでタイ、ベトナム、韓国、インドネシア、台湾など、アジアの成長市場をターゲットに活動を展開してきた。過去2年間で1千人以上の貿易ネットワークの構築や市場アクセスの向上に取り組んでいる。

クロウリー・マネージングディレクターは、「オージービーフとラムは、50年以上の間日本で流通してき



た。2022年の統計によると豪州から日本への輸出量は牛肉が25万t、ラムが1万6千t。金額ベースでは20億豪州ドルになる。製品の高いクオリティーや使いやすさがわれわれのパートナーシップに貢献し、ますます流通量は伸びている。今後も日本と長期的な関係を築き上げ、そして、日本の赤身肉に対するニーズに応じて、供給をしっかりと増やしていきたいと思っている」

「本日、われわれアンバサダーを通して、その高いクオリティーについて皆さまにお示しする機会となった。レッドミートアンバサダーという赤身肉のアンバサダーを行う方がたがオーギービーフ、ラム共に一般の方に広め、日本の皆さまの嗜好に合った形で紹介していくことに取り組んでいく。スタッフと共にマーケティングキャンペーンを展開し、輸入業者や消費者、外食、小売の皆さまに製品の展開を進めていく」と述べた。

ストローン農務担当参事官は「日本から特に農業分野に対する投資について、非常に歓迎している。日本の皆さまにとって大切なことは安全・安心なサプライチェーンである。豪州の生産者は、品質だけでなく、サステナビリティなど、非常に高い基準に見合う生産をしている。日豪間におけるパートナーシップがこれからも力強く安定した形で、そして持続可能な形で展開されていくことが、ますます重要性を帯びてくるだろう」と述べた。

また、発表会当日には、品目ごとに分かれ、業界関係者向けの五つのワークショップが行われ、食肉関係では「和食とオーストラリアの赤身肉の融合」をテーマにオーギーラムを使った調理方法などを紹介した。(ワークショップ詳細は後日掲載)

大阪・関西万博の全容を報道陣に公開、培養肉など「ミライの世界」をPR

大阪・関西万博を運営する日本国際博覧会協会は9日、13日から開幕する万博に先駆け、「メディアデー」として大阪市此花区の夢洲(ゆめしま)の万博会場を報道陣・インフルエンサーらに公開。国内外から4500人を超える関係者が参集した。これまでパビリオン建設の遅れなどが伝えられるなど、全体像や進捗はどうかになっているのか懐疑的な声も上がっていたが、当日は165の国・地域・国際機関や企業などが出展するパビリオンの大半が公開され、「いのち輝く未来社会のデザイン」のテーマを基にした各パビリオンの紹介がなされた。

本紙関係では伊藤ハム米久ホールディングスと大阪大などで作る「培養肉未来創造コンソーシアム」が大阪ヘルスケアパビリオン「ミライの都市」エリア内で出展する、動物細胞を採取、増殖させて人工的に作る培養肉の実物と、未来の製造機器のデモンストレーションなどを公開。3Dバイオプリント技術で製造、成形した培養肉を展示するほか、消費者の好みに合わせて霜降りや赤身の量を自在に調整できる「ステーキメーカー」が備わる未来のキッチンを映像で表現する。

そのほか、関西の外食事業者で構成される大阪外食産業協会(ORA)が民間パビリオン「宴~UTA



GE~」を出展。パビリオンのテーマを「新・天下の台所~食博覧会・大阪2025~」と定め、国内外の来場者に大阪の食の魅力を発信すべく、1階がフードコート、2階は食の体験スペースを設けた施設を公開した。宴パビリオンは、会期中に継続出展する“常設ブース”と、週ごと月ごとの期間限定で販売する“ORAブース”の二つで構成されており、“常設ブース”では、伊藤ハム米久ホールディングスが「宴バーガー」と名付けたハンバーガーショップを開設。「ソイミートのOKONOMIYAKI風BURGER」などを販売する。

大阪・関西万博は4月13日~10月13日に開催。期間中の来場者数は2820万人、国内経済への波及効果は全国で約2・9兆円に上ると試算されている。

令和6年度野生鳥獣肉の衛生管理等に関する実態調査 ガイドラインの平均順守率 0.5ポイント増

厚労省はこのほど、令和6年度野生鳥獣肉の衛生管理等に関する実態調査の結果を公表した。調査対象157自治体のうち、野生鳥獣肉の処理実態がある自治体では、独自または厚労省のガイドラインの活用により、野生鳥獣肉の衛生管理が関係者に対して指導されている。地域の実情に応じた独自のガイドラインを策定していると回答したのは33自治体(昨年調査36自治体)だった。

食品衛生法に基づく食肉処理業の許可に上乘せした野生鳥獣処理の施設登録制度を導入していたのは昨年と同じく8自治体。捕獲者や処理施設従業員を対象とした衛生管理講習会を開催していると回答したのは26自治体(27自治体)、捕獲者や施設処理従業員を対象とした疾病排除講習会を開催していると回答したのは20自治体(24自治体)だった。

捕獲者や処理施設従業員が処理野生鳥獣の異常・疾病の有無について相談できる窓口を設置していると回答したのは昨年同様31自治体。主な相談窓口は、食肉衛生検査所、保健所や家畜保健衛生所だった。

47都道府県のうち、野生鳥獣の移動解体車(ジビエカー)の営業許可に関わる施設基準について、参酌基準とは別に追加基準を条例に設けていると回答したのは1自治体(熊本県、昨年なし)だった。令和3年の食品衛生法改正以降にジビエカーを新規許可したのは3自治体(山梨県、熊本県、宮崎県)

捕獲・運搬に関する規定—捕獲後に食肉処理場に搬入するまでの時間を都道府県策定のガイドラインなどにおいて規定していると回答したのは昨年より2自治体減少し7自治体(埼玉県、石川県、山梨県、甲府市、三重県、佐世保市、大分県)。運搬時間は、おおよそ1時間から2時間以内の間で規定されていた。

屋外での内臓摘出を認めていないと回答したのは50自治体(昨年75自治体)であった。内臓摘出は原則食肉処理場で行うが、条件によって屋外で行うことも認めていると回答したのは75自治体(78自治体)

だった。屋外で内臓摘出を認める条件の例として、捕獲場所から食肉処理施設への運搬に長時間を要する場合や夏場に限定するといった回答があった。

食肉処理施設における野生鳥獣肉処理—食肉処理業などの許可を有する野生鳥獣の処理施設は、全国で908施設(861施設)あり、昨年調査時から47施設増加した。施設に搬入される野生鳥獣の状態(重複あり)は、生体が179施設、止め刺しされたと体が744施設(うち535施設は内臓摘出されていないと体のみを受け入れ)だった。

鹿、猪を処理する施設などについて年間処理頭数規模別にみると(4年度実績)、鹿は全ての規模で施設数は増加、猪は100~千頭以下で減少したが、それ以外の規模では増加した。

回答に応じた910施設における受入後の野生鳥獣肉の処理・衛生管理状況について、昨年調査と同様に「疾病排除」「汚染を防止するための解体処理」「冷蔵設備の温度管理」は各項目とも高い実施状況であった。一方、「細菌検査」「金属探知の実施」「解体処理の記録」は、今回調査でも順守率は低かった。ガイドラインの各項目の順守率(各項目について順守している施設の割合)の平均値(平均順守率)は94.4%で、昨年の93.9%(回答施設数861施設)から上昇している。

加工、調理、販売について—自治体は、保健所による営業許可の更新時や監視指導などの機会、認証登録制度、ウェブサイト情報、新聞等により、野生鳥獣肉を取り扱う加工、調理、販売施設を把握している。野生鳥獣肉(加工品も含む)の収去検査を行っているとは報告したのは13自治体(昨年11自治体)。収去検査の主な項目は、一般細菌数、サルモネラ属菌、腸管出血性大腸菌、黄色ブドウ球菌、カンピロバクター、E型肝炎ウイルスなどだった。

消費者への普及啓発については、パンフレット、ホームページ、講習会などを通じて野生鳥獣肉の安全性に関する情報提供が行われていた。

JPPA、24年度養豚農業実態調査報告書・優良事例調査報告書を公表

一般社団法人日本養豚協会(JPPA)はこのほど、2024年度養豚農業実態調査報告書および優良事例調査報告書を公表した。

24年度版の報告書は従来の形式から変更され、詳細版と簡易ダイジェスト版に分かれている。さらに、経年比較を掲載することで業界の変化を明確化しており、より使いやすい報告書となった。詳細版および簡易ダイジェスト版は同協会のホームページで公開されている。

また同年度からは、選考方法の一部にベンチマー

キングを用いた優良事例調査を新たに実施。ベンチマーキングに参加し、管理獣医師と協力して特徴的な経営をしている農場を調査し、今回は優良事例として青森県の(有)飯田養豚場を選出した。この報告書もホームページで公開されている。

ホームページのURLは次のとおり。<https://jppa.biz/jppa-document/>



第3回 IFFA 主催食肉加工品コンテストが日本で開催、出品製品を募集

ドイツ食肉連盟(DFV)主催のIFFA食肉加工品・品質コンテストが日本で開催される。日本開催に伴い、前回に引き続き出品窓口は(株)小野商事が担当する。本社テストルームを会場として9月2～5日に審査される。IFFA食肉加工品・品質コンテストは、ドイツ・フランクフルトで3年に1度開催されるコンテストで、130年以上の歴史を誇る世界最大の食肉機械専門見本市「IFFA」と併設され世界各国から製品が集う、伝統的で格式の高い品評会として注目されている。

主催者するDFVは約1万2千人の食肉加工の熟練技術者が登録し、ドイツ食肉業界を統括している組織団体である。ドイツにはヘッセン、バイエルンをはじめ10校のマイスタースクールがあり、そこで講師を務めていた技術者も所属している。

今回のコンテスト開催においてもドイツ・マイス

ターが多数来日し、IFFAコンテストと同じ厳格な加工品の品質審査を行う。高品質な加工品には、メダルとトロフィーが授与される。

コンテストのカテゴリーは「加熱・非加熱ソーセージ」「加熱・非加熱ハム」「ローストビーフ」など。完全に加熱・熟成された未カット品が参加対象で、1アイテム約1kgのサンプル出品。カットされた製品ならびに、鶏肉・ジビエの非加熱製品は対象外。

応募出品数600品目。1社からの出品数は各カテゴリーで最大10製品まで。応募出品数が集まり次第、締め切りとなる。

【問い合わせ先】事務局(株)小野商事 小川重光氏・大平氏まで。電話＝0436(75)2800、FAX＝0436(75)2600。Email:iffa2022japan@ono-corp.co.jp

協和食品が事務所を移転

協和食品(株)は4月21日、事務所を移転する。なお、電話番号、FAX番号、登記上の本社所在地に変更はない。移転先の所在地、本社の所在地は次のとおり。

移転先＝東京都品川区北品川1-16-1、舟正ビル2階

本社所在地(変更なし)＝東京都品川区北品川1-17-2、北品川協和ビル

全国食肉学校が6月12日、13日、馬事畜産会館で基礎セミナーを開催

公益社全国食肉学校(小原和仁学校長)は、6月12、13日、馬事畜産会館(東京都中央区新川2-6-16)で、食肉業界で必須となる基礎知識を学ぶセミナー3講座を開催する。受講生を募集している。

12日、9時30分~12時30分、ハム、ソーセージ、ベーコンなど加工品の概要が学べる「食肉加工品の基礎知識半日セミナー」、13時30分~17時30分は食肉関連の仕事をする上で最低限必要な基礎知識を分かりやすく学ぶ「食肉の基礎知識半日セミナー」

を開催する。受講料はいずれの講座とも1万6500円(税込み)。

翌、13日に同会場で9時30分~17時30分、「食肉の原価計算基礎から応用セミナー」を開催する。講義で原価認識の重要性や原価の構成要素などを学び、牛・豚肉の原価計算や値入れ、売価計算などについて演習を行う。受講料は2万7500円(税込み)。問い合わせは電話=0270(65)2571まで。

チリ、米国追加関税に農林水産物への影響警戒

チリの経済・振興・観光省と農業省は、米国のドナルド・トランプ大統領が2日に発表した関税政策を受け、チリ産農林水産物への関税賦課の影響を調査する目的で開催された臨時会合の様子をそれぞれのウェブサイト上で伝えた。同会合は7日に開催され、農林水産物の輸出業者や関連の業界団体に加え、両省の閣僚や外務省国際経済関係次官官房(SUBREI)総局長、駐米チリ大使らが出席した。会合を終えたエステバン・バレンスエラ農業相は「(米国の関税措置に適切に対応するには)本日の会合を

通じて合意した業界団体や省庁の枠組みを超えた官民の連携を積極的に推し進めていくことが重要だ。さらに、中南米諸国とチリとの結びつきを強めることに加え、中国、ASEAN、日本といった戦略的に重要性が高い市場への農林水産物のプロモーションも引き続き実施する。こういった市場の多角化へ向けた取り組みによって、輸出国としてのチリのポジションは安定的なものとなり、単一の市場への依存度を減らすことにつながる」とコメントした。(JETRO)

増収増益達成し純利益は過去最高に、ライフの25年2月期決算

(株)ライフコーポレーションは10日、2025年2月期決算を発表した。それによると、営業収益は8504億9600万円(前期比5.0%増)、営業利益252億7千万円(4.8%増)、経常利益262億500万円(5.0%増)、親会社株主に帰属する当期純利益179億4800万円(6.0%増)と増収増益を達成。営業収益は21期連続増収で過去最高に、営業利益、経常利益はコロナ下のそれに次ぎ2番目、純利益は過去最高益となった。

岩崎高治社長は過去最高の収益、純利益だったと述べた後、「客数、客単価共に伸びた。また、首都圏売り上げが通期で初めて近畿圏を上回った。粗利益率は31.1%から0.2ポイントダウンしたが、これはお

客さまからの『品質と価格のバランスが悪い』という声に対応を図った結果で、上半期に少しやり過ぎたので、下期には修正を図った」などと説明した。

部門別売上高のうち食品は7267億1100万円(既存店ベース前期比3.1%増)で、畜産は909億9千万円(2.2%増)、総菜は969億7800万円(3.4%増)となっている。畜産の粗利益率は28.7%(1.8ポイント減)、総菜は54.4%(0.4ポイント減)

次期の業績は営業収益8850億円(前期比4.1%増)、営業利益257億円(1.7%増)、経常利益265億円(1.1%増)、親会社株主に帰属する当期純利益180億円(0.3%増)を見込んでいる。

丸大食品、宮城に東日本エリアの生産拠点、ミートサプライの新工場竣工

丸大食品は10日、宮城県名取市に建設を進めていたグループ会社である(株)ミートサプライ(大阪府高槻市、野際晃彦社長)仙台工場の竣工式を行った。

ミートサプライは、2007年8月に丸大食品の100%出資子会社として設立。主に食肉加工食品(加工肉、総菜など)を製造・販売しており、安全・安心でよりおいしい食品を提供すべく、新設した仙台工場を含め、全国10拠点の工場で事業活動を行っている。東日本エリアの生産拠点として仙台工場を稼働することにより、丸大食品グループとして食肉事業における事業規模の拡大を図る。また、「多様化する顧客ニーズに合わせた商品作りへの柔軟な対応、流通・外食を取り巻く人手不足に伴う省人化対策への貢献、サブ

イチェーンにおける食品ロス削減といった社会課題解決の一助となるべく、東北エリアの発展と持続可能な社会の実現に取り組む」としている。



【施設概要】(株)ミートサプライ 仙台工場▷所在地 宮城県名取市愛島台5-101-36▷延床面積 4295㎡、鉄骨造り2階建て▷生産品目=加工品(チルドパック、フローゼンパック、調理加工品、冷凍総菜)

米国農務省、停止状態の中国向け食肉輸出認可施設の登録更新を公表

米国農務省・海外農務局(USDA/FAS)はこのほど、中国海関総署(GACC)が3月15、17日に、米国内の中国向け豚肉輸出認可施設(365件)・鶏肉輸出施設(210件)の認可登録を更新した公表した。

中国では、輸入食品の安全性を確保するため、特定の食品について、外国企業が海外で生産する食品の輸入を認可制としている。今般、5年ごとの認可登録の更新時期を迎えていた中で、GACCは3月16日、米国内の更新対象となる豚肉および鶏肉輸出施設の登録状況を、突如「有効」から「期限切れ」に変更し、事実上、これら施設からの輸入が停止状態となっていた。現地報道によると、トランプ政権による中国への追加関税措置への報復措置とみられていた。

米国豚肉生産者協議会(NPPC)は3月17日、GACCの認可登録の更新後、声明を発表し、「過去数カ月の間、米国農務省(USDA)と米国通商代表部(USTR)は、期限切れ間近となった認可施設の登録更新に向けて、中国側と積極的に協議を進めてきた」とした上で、「14億人の人口を抱える中国市場へのアクセスの維持と確実性の向上につながる」と歓迎を表明した。

一方、認可登録されている牛肉輸出施設(654件)のうち、386施設については、いまだ認可登録の

更新が行われていない。

ここ数年間の米国の中国向けの食肉輸出の動向をみると、牛肉は増加傾向、豚肉および鶏肉に関しては減少傾向で推移している。

【牛肉】牛肉の輸出は、第1次トランプ政権時の2020年2月に発効した米中経済貿易協定の第1段階の合意により、中国の牛肉輸入制限が緩和されたことで増加し、24年の輸出量は21万5282t(20年比4倍)と拡大している。輸出先は日本、韓国に続き、中国は第3位となり、全輸出量の約16%を占めている。

【豚肉】豚肉の輸出は、18年に中国国内で発生したASF(アフリカ豚熱)の流行に伴う生産減により輸入が増加した。21年以降は中国国内の豚肉生産量の回復や競合国からの輸入により、米国からの輸出量は減少している。

【鶏肉】鶏肉の輸出は、米中経済貿易協定の第1段階合意による輸入制限の解除に伴い、20年に輸出量が拡大したものの、その後は減少傾向で推移している。また、鶏肉全体(鶏足<もみじ>を除く)の輸出量に占める中国の割合は1桁台にとどまっているが、中国は鶏足の最大の輸出先であり、これも含めた輸出量ではメキシコに次ぐ第2位の輸出先となっている。(農畜産業振興機構)

【輸入牛現物相場】 入船遅れの影響で豪州産赤身の引き合い強まる

豪州産チルドは引き続きカタ系、モモ系など赤身の引き合いが強い。その強さの理由は末端の売れ行きというより、豪州からの入船遅れだ。3週以上の遅れが発生し、次回の入荷は5月上旬を見込んでいる。大型連休を前に手当てしておきたいということから引き合いが強まっている。そのため、末端の売れ行きはまだそこまで活気づいていないと考えられる。一方でバラ系はまだ重い。価格帯の近い米国産などで代替できるから、差し迫って確保しておく必要がないということだろうか。

米国産チルドは入船遅れなどもなく、相場はやや軟化傾向。為替の変動も落ち着いており、当面は相

場の急激な変化はなさそうだ。気になるのはトランプ大統領による関税政策の影響。現状、食肉業界に大きな影響は出ていないが、今後、米中間のマーケット変動などが日本にも影響を及ぼす可能性があり、注視したいところだ。

豪州産フローズンはチルドの代替需要でウデ・モモの引き合いがあるが、在庫は逼迫しており、欠品も相次いでいる。代替需要を除けば、引き合いは弱く、主要アイテムのカウミートも値頃感が出ていないため、動きは停滞傾向に入った。米国産フローズンはチャックアイの在庫が不足傾向。ショートプレートは相場を下げ始めているが、動きは重い。

豪州産、米国産ともに現地相場がここ数カ月で一定程度下落するのではないかとみられている。しかしながら、国内の末端需要があまり伸びていないため、仕入れには慎重な姿勢の企業が多い。

【輸入牛肉現物相場】 円/キロ

		グラス	ショートグレイン
豪州産	トップサイド	1,350 ~ 1,400	1,350 ~ 1,550
	シックフランク	1,300 ~ 1,350	1,400 ~ 1,450
	アウトサイド	1,300 ~ 1,350	1,400 ~ 1,450
	ポイント	1,250 ~ 1,350	1,350 ~ 1,500
	ナーベル	1,200 ~ 1,250	1,200 ~ 1,400
	ランプ	1,500 ~ 1,600	1,750 ~ 1,900
	クロッド	1,250 ~ 1,350	1,350 ~ 1,450
	チャックロール	1,400 ~ 1,450	1,600 ~ 1,650
	チャックテンダー	1,400 ~ 1,450	1,500 ~ 1,550
	キューブロール	2,700 ~ 2,800	3,500 ~ 3,970
C	ストリップロイン	2,300 ~ 2,400	2,500 ~ 2,600
	テンダーロイン	4,300 ~ 4,500	4,700 ~ 4,800
豪州産	チャック&ブレード	-	-
	ポイント	1,200 ~ 1,250	-
	ナーベル	1,200 ~ 1,250	-
	カウミート	1,000 ~ 1,200	-
F	トップサイド	1,300 ~ 1,350	-
	シックフランク	-	-

		チルド	フローズン
米国産	スクウェアカットチャック	-	-
	ショルダークロッド	1,600 ~ 1,700	1,500 ~ 1,600
	ショートプレート	1,290 ~ 1,400	1,150 ~ 1,250
	ボンレスショートリブ(チョイス)	5,800 ~ 6,000	-
	ボンインショートリブ	-	-
	チャックリブ(チョイス)	3,450 ~ 3,510	-
	ストリップロイン(チョイス)	4,000 ~ 4,500	-
	リブアイロール(リップオン)	4,700 ~ 4,800	-
	テンダーロイン	5,000 ~ 6,000	-
	ステーキレディ	-	-
国産	チャックアイロール(チョイス)	2,050 ~ 2,200	1,750 ~ 2,000
	同(プライム)	2,400 ~ 2,550	2,000 ~ 2,300

【ブロイラー市中現物相場】 国産冷凍モモ、手羽モト軟調

◇国産物 気温の高まりとともに、涼味商材の生鮮ムネ、生鮮ササミの引き合いが強まり、生鮮モモの需要はやや落ち着いている。冷凍物も季節的な要因でモモや手羽モトなど、煮物、鍋物商材はやや値を下げた。

◇輸入物 ブラジル産、タイ産、米国産とも、日本への輸出量が減少し、各部位とも高値張り付きが

続いている。まとまった入荷があったブラジル産グリラーのみ、やや値を下げた。荷動きについては「需要期のゴールデンウィークの仕込み時期の前で、模様眺めが多い」との声もきかれた。

ブロイラー現物相場

国産冷凍物	
モモ正肉(産地凍結)	650~690
ムネ正肉(〃)	400~420
手羽モト(〃)	290~350
手羽サキ(〃)	玉なし
砂キモ(〃)	玉なし
ササミ(〃)	380~500

輸入物

米国産モモ正肉(240gUP)	460中心
米国産ジャンボレッグ(350gUP)	350中心
米国産B I L	550~570
ブラジル産モモ正肉	450~460
ブラジル産モモ角切り	460~480
ブラジル産皮なしモモ正肉	470中心
ブラジル産グリラー(1000gUP)	450~470
ブラジル産手羽サキ(50gUP)	600中心
タイ産モモ正肉	480~490
タイ産モモ角切り(25~30g)	460~470
米国産モモ串	玉なし

単位: 円/kg

[資料] 日本食肉流通センター週間市況 〈和牛・交雑牛・乳牛チルド〉

(令和7年3月30日～4月5日)

(単位：キロ当たり円、税込み、重量kg)

		第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み 平均値	取引重量	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み 平均値	取引重量	
		和牛チルド「4等級」	首都圏	カタロース	3,852	4,194	4,242	4,115	5,998	3,456	3,780	4,104
カタ	3,321			3,398	3,456	3,388	9,085	3,510	3,564	4,077	3,779	6,556
カタバラ	2,538			2,863	3,414	3,018	1,741	-	-	-	-	706
マエセット	3,240			3,240	3,294	3,245	1,076	-	-	-	-	-
ヒレ	8,912			9,720	11,079	9,840	1,502	9,180	10,054	10,260	9,988	1,740
ロイン	5,516			5,516	9,396	6,663	1,638	5,616	5,940	6,321	5,977	4,094
ロインセット	5,720			5,875	6,042	5,882	1,387	-	-	-	-	-
トモバラ	1,836			2,277	2,769	2,318	11,542	2,160	2,778	3,348	2,760	8,196
ウチモモ	3,780			4,126	4,212	4,095	2,075	3,748	3,777	4,320	3,911	1,629
シントマ	3,958			4,167	4,212	4,118	3,890	3,791	4,169	4,320	4,091	1,609
ランイチ	3,768			4,158	4,212	4,068	2,501	3,872	3,932	4,320	4,083	1,619
ソトモモ	3,371			3,421	3,909	3,553	3,232	3,371	3,603	3,603	3,564	1,418
スネ	1,890			1,893	2,000	1,922	2,784	2,020	2,164	2,192	2,137	3,834
モモセット	4,000			4,104	4,275	4,119	13,308	3,618	3,839	3,942	3,831	12,476
セット	3,467	4,277	4,800	4,160	21,280	3,402	3,564	4,320	3,695	9,223		
重量合計											83,039	
和牛チルド「4等級」	中京圏	カタロース	-	-	-	-	761	-	-	-	-	838
		カタ	3,456	3,672	3,780	3,688	2,037	-	-	-	-	816
		カタバラ	2,700	2,894	3,046	2,856	1,374	-	-	-	-	476
		ヒレ	-	-	-	-	534	-	-	-	-	188
		ロイン	-	-	-	-	455	-	-	-	-	330
		トモバラ	1,674	1,782	1,998	1,809	3,081	1,782	1,944	3,996	2,305	1,755
		ウチモモ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	60
		シントマ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	235
		ランイチ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	105
		ソトモモ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	211
		スネ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	543
		モモセット	3,391	3,694	3,888	3,673	1,448	-	-	-	-	-
		セット	3,655	3,655	3,655	3,655	4,065	3,456	3,704	4,104	3,736	6,419
		重量合計										
交雑牛チルド「3等級」	首都圏	カタロース	2,532	2,735	3,240	2,759	9,130	2,700	2,884	3,024	2,883	11,693
		カタ	2,484	2,758	3,105	2,771	4,282	2,428	2,484	2,700	2,502	8,978
		カタバラ	1,612	1,907	2,793	2,054	3,187	1,458	1,572	1,818	1,577	4,034
		ヒレ	5,939	6,111	6,480	6,120	2,648	6,469	6,612	6,912	6,634	3,168
		ロイン	3,793	4,287	4,499	4,168	1,481	4,320	4,494	4,669	4,471	5,336
		トモバラ	1,458	2,268	3,024	2,334	8,675	1,490	1,566	1,896	1,614	15,081
		ウチモモ	2,430	2,509	2,672	2,529	2,526	2,376	2,484	2,592	2,484	6,136
		シントマ	2,457	2,754	2,899	2,692	3,322	2,376	2,528	2,709	2,534	5,365
		ランイチ	2,376	2,592	2,861	2,635	3,524	2,433	2,583	2,646	2,553	6,196
		ソトモモ	2,003	2,061	2,160	2,102	2,777	2,160	2,376	2,524	2,371	5,981
		スネ	1,423	1,620	1,655	1,571	2,009	1,512	1,605	1,706	1,591	5,613
		モモセット	-	-	-	-	-	2,322	2,484	2,557	2,472	7,368
		セット	2,764	3,006	3,154	2,965	24,384	2,808	3,078	3,186	3,060	34,559
		重量合計										
乳牛チルド「3等級」	首都圏	カタロース	2,600	2,677	2,916	2,672	4,382	2,365	2,554	3,026	2,625	5,867
		カタ	-	-	-	-	942	1,701	1,943	2,130	1,894	5,416
		カタバラ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		三角バラ	-	-	-	-	-	2,462	2,754	3,510	2,769	1,364
		ブリスケット	-	-	-	-	-	1,188	1,296	1,404	1,308	2,250
		ヒレ	5,052	5,138	5,400	5,182	1,463	4,860	5,076	5,672	5,148	2,479
		ロイン	-	-	-	-	446	3,110	3,456	3,926	3,396	3,233
		トモバラ	1,512	2,679	3,253	2,689	2,737	1,188	1,400	2,127	1,507	6,292
		ウチモモ	2,052	2,091	2,250	2,101	2,046	1,998	1,998	2,215	2,053	3,774
		シントマ	2,100	2,160	2,267	2,174	1,079	1,836	1,858	1,998	1,893	1,598
		ランイチ	2,052	2,160	2,592	2,184	1,505	1,744	1,944	2,052	1,930	2,425
		ソトモモ	-	-	-	-	835	1,836	1,890	1,998	1,914	2,041
		スネ	1,469	1,512	1,512	1,503	1,497	1,512	1,566	1,649	1,574	3,174
		セット	2,700	2,700	2,700	2,700	8,642	1,781	1,967	2,041	1,904	20,741
重量合計											25,574	
交雑牛チルド「3等級」	近畿圏	カタロース	-	-	-	-	761	-	-	-	-	838
		カタ	3,456	3,672	3,780	3,688	2,037	-	-	-	-	816
		カタバラ	2,700	2,894	3,046	2,856	1,374	-	-	-	-	476
		ヒレ	-	-	-	-	534	-	-	-	-	188
		ロイン	-	-	-	-	455	-	-	-	-	330
		トモバラ	1,674	1,782	1,998	1,809	3,081	1,782	1,944	3,996	2,305	1,755
		ウチモモ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	60
		シントマ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	235
		ランイチ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	105
		ソトモモ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	211
		スネ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	543
		モモセット	3,391	3,694	3,888	3,673	1,448	-	-	-	-	-
		セット	3,655	3,655	3,655	3,655	4,065	3,456	3,704	4,104	3,736	6,419
		重量合計										

(令和7年3月30日～4月5日)

交雑牛チルド「3等級」	近畿圏	カタロース	2,700	2,884	3,024	2,883	11,693	2,700	2,884	3,024	2,883	11,693
		カタ	2,428	2,484	2,700	2,502	8,978	2,428	2,484	2,700	2,502	8,978
		カタバラ	1,458	1,572	1,818	1,577	4,034	1,458	1,572	1,818	1,577	4,034
		ヒレ	6,469	6,612	6,912	6,634	3,168	6,469	6,612	6,912	6,634	3,168
		ロイン	4,320	4,494	4,669	4,471	5,336	4,320	4,494	4,669	4,471	5,336
		トモバラ	1,490	1,566	1,896	1,614	15,081	1,490	1,566	1,896	1,614	15,081
		ウチモモ	2,376	2,484	2,592	2,484	6,136	2,376	2,484	2,592	2,484	6,136
		シントマ	2,376	2,528	2,709	2,534	5,365	2,376	2,528	2,709	2,534	5,365
		ランイチ	2,433	2,583	2,646	2,553	6,196	2,433	2,583	2,646	2,553	6,196
		ソトモモ	2,160	2,376	2,524	2,371	5,981	2,160	2,376	2,524	2,371	5,981
		スネ	1,512	1,605	1,706	1,591	5,613	1,512	1,605	1,706	1,591	5,613
		モモセット	-	-	-	-	-	2,322	2,484	2,557	2,472	7,368
		セット	2,764	3,006	3,154	2,965	24,384	2,808	3,078	3,186	3,060	34,559
		重量合計										
乳牛チルド「3等級」	近畿圏	カタロース	2,365	2,554	3,026	2,625	5,867	2,365	2,554	3,026	2,625	5,867
		カタ	1,701	1,943	2,130	1,894	5,416	1,701	1,943	2,130	1,894	5,416
		カタバラ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		三角バラ	-	-	-	-	-	2,462	2,754	3,510	2,769	1,364
		ブリスケット	-	-	-	-	-	1,188	1,296	1,404	1,308	2,250
		ヒレ	5,052	5,138	5,400	5,182	1,463	4,860	5,076	5,672	5,148	2,479
		ロイン	-	-	-	-	446	3,110	3,456	3,926	3,396	3,233
		トモバラ	1,512	2,679	3,253	2,689	2,737	1,188	1,400	2,127	1,507	6,292
		ウチモモ	2,052	2,091	2,250	2,101	2,046	1,998	1,998	2,215	2,053	3,774
		シントマ	2,100	2,160	2,267	2,174	1,079	1,836	1,858	1,998	1,893	1,598
		ランイチ	2,052	2,160	2,592	2,184	1,505	1,744	1,944	2,052	1,930	2,425
		ソトモモ	-	-	-	-	835	1,836	1,890	1,998	1,914	2,041
		スネ	1,469	1,512	1,512	1,503	1,497	1,512	1,566	1,649	1,574	3,174
		セット	2,700	2,700	2,700	2,700	8,642	1,781	1,967	2,041	1,904	20,741
重量合計											60,654	

東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数

[東京食肉卸売市場] 4月10日
枝肉卸売価格(瑕疵除く)(頭、1kg当たり円、税込み)

◇牛生体		5	4	3	2	1	
和牛	雌 A	高値	2,919	2,379	-	-	-
		安値	2,161	2,125	-	-	-
		平均	2,527	2,261	2,171	-	-
	85頭	頭数	65	19	1	-	-
	雌 B	高値	-	-	-	-	-
		安値	-	-	-	-	-
		平均	-	-	-	-	-
	-頭	頭数	-	-	-	-	-
	去 A	高値	3,135	2,378	2,205	-	-
		安値	2,160	2,107	1,998	-	-
		平均	2,497	2,271	2,165	2,052	-
	194頭	頭数	135	47	11	1	-
去 B	高値	-	-	-	-	-	
	安値	-	-	-	-	-	
	平均	-	-	-	-	-	
-頭	頭数	-	-	-	-	-	
乳牛	雌 B -頭	平均	-	-	-	-	
	雌 C -頭	平均	-	-	-	-	
	去 B -頭	平均	-	-	-	-	
	去 C -頭	平均	-	-	-	-	
交雑牛	雌 B	平均	-	1,703	1,574	1,460	-
		33頭	頭数	-	7	19	7
	雌 C	平均	-	-	1,485	1,408	-
		2頭	頭数	-	-	1	1
	去 B	平均	-	1,884	1,623	1,544	-
		20頭	頭数	-	5	6	9
去 C	平均	-	-	1,525	1,456	-	
	3頭	頭数	-	-	2	1	-

	牛	豚	搬入牛	搬入豚		その他
と畜 売買	344 430	1,124 952	- 269.0	(競り)	(相対)	
				-	-	57

◇牛搬入		5	4	3	2	1
和 雌	A	2,393	1,981	1,543	1,402	-
	B	-	-	1,361	1,247	-
和 去	A	2,459	2,416	2,084	-	-
	B	-	-	-	1,419	-
乳 雌	B	-	-	-	892	843
	C	-	-	-	903	853
乳 去	B	-	-	-	-	-
	C	-	-	-	-	-
交 雌	B	-	1,656	1,551	1,481	-
	C	-	-	1,474	1,466	757
交 去	B	1,742	1,699	1,581	1,405	-
	C	-	1,598	-	1,457	-

◇豚		[極上]	[上]	[中]	[並]	[等外]
生体	高値	624	765	669	605	544
	安値	585	541	529	443	324
	平均	599	578	556	535	463
	頭数	(5)	(367)	(403)	(109)	(68)
搬入 競り	高値	-	-	-	-	-
	安値	-	-	-	-	-
	平均	-	-	-	-	-
搬入 相対	高値	-	-	-	-	-
	安値	-	-	-	-	-
	平均	-	-	-	-	-
	頭数	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)

[大阪食肉卸売市場] 4月10日
枝肉卸売価格(生体)(1kg当たり円、税込み) []は豚規格

	5[極上]	4[上]	3[中]	2[並]	1[等外]
和 雌 A	2,620	2,333	-	-	-
(頭数)	(15)	(4)	(-)	(-)	(-)
B	-	-	-	-	-
(頭数)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
和 去 A	2,706	2,333	2,106	-	-
(頭数)	(6)	(6)	(1)	(-)	(-)
B	-	-	-	-	-
(頭数)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
乳 去 B	-	-	-	-	-
交雑雌 B	1,839	1,754	1,592	1,493	-
C	-	1,594	1,553	-	-
交雑去 B	1,890	1,694	1,606	-	-
C	-	1,632	-	-	-
豚	-	629	599	498	480

[全国と畜概算頭数]
農水省統計部発表 (頭)

	4月10日	4月9日	(4月累計)
豚	63,700	60,600	494,600
成牛計	4,020	4,770	36,090
和牛雌	900	1,310	9,170
和牛去勢	1,000	1,370	10,030
乳牛雌	860	680	5,720
乳牛去勢	400	430	3,430
交雑雌	370	450	3,720
交雑去	490	530	4,010

[去勢牛B3・2規格 枝肉取引価格] 4月10日

	1,555円	(前日 1,589円)
東京		
大阪	1,579円	(前日 1,601円)

[豚・全農建値] 4月10日

上	中	取引頭数	市況
582円	561円	1,233頭	急落

と畜 売買	牛 66頭	豚 86頭	牛概況	もちあい
	牛 89頭	豚 158頭	豚概況	もちあい

各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場

[主要市場豚枝肉卸売価格] 4月10日 (1kg当たり円、税込み)

	上加重 (前日)	中加重 (前日)	と畜	上場	市況
北海道 [セ]	616 (616)	- (-)	5,725	-	もちあい
仙台 [中]	588 (596)	495 (478)	363	50	反落
栃木 [地]	581 (636)	556 (562)	1,434	87	下押し
茨城 [地]	608 (611)	581 (580)	1,159	843	小反落
群馬 [地]	588 (606)	500 (513)	2,290	413	続落
さいたま [中]	562 (590)	553 (579)	246	247	急落
東京 [中]	578 (598)	556 (575)	1,124	952	続落
横浜 [中]	607 (611)	574 (588)	678	681	もちあい
山梨 [地]	613 (585)	585 (555)	167	137	反発
浜松 [地]	- (-)	- (-)	-	-	競り休止
名古屋 [中]	572 (574)	560 (549)	867	275	もちあい
京都 [中]	618 (-)	567 (-)	67	113	もちあい
大阪 [中]	629 (628)	599 (609)	86	114	もちあい
神戸 [中]	657 (-)	629 (-)	47	125	-
岡山 [地]	629 (663)	674 (628)	254	227	反落
広島 [中]	- (600)	- (589)	184	5	-
福岡 [中]	574 (584)	561 (561)	473	150	続落

注：北海道はホクレン大卸売価格で、前日の全道と畜頭数。

[日本食肉流通センター] 4月3日~4月9日
豚カット肉 [I] (1kg当たり円、税込み、重量kg)

◇首都圏 総重量 1,739,391 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,069	1,190	1,243	1,189	71,041
うで	751	824	836	813	138,899
ロース	1,069	1,104	1,198	1,125	157,910
ばら	1,134	1,221	1,282	1,225	158,473
もも	772	799	823	798	231,679
ヒレ	1,048	1,082	1,173	1,112	16,430
セット	945	1,030	1,064	1,021	964,959

◇近畿圏 総重量 690,518 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,166	1,295	1,349	1,281	56,280
うで	733	775	799	773	111,463
ロース	1,069	1,171	1,244	1,179	90,848
ばら	1,166	1,250	1,296	1,243	112,629
もも	745	762	805	768	170,928
ヒレ	1,174	1,218	1,311	1,236	10,223
セット	908	1,004	1,098	1,012	138,147

[食鳥正肉日経相場] 4月9日
荷受売値平均値 (kg当たり円、税抜き)

◇東京 (8社) ※休載

	安値	加重平均	高値	販売量 (t)
モモ	-	-	-	-
ムネ	-	-	-	-

◇大阪 (2社)

	安値	加重平均	高値	販売量 (t)
モモ	720	770	1,010	5
ムネ	386	428	570	5

[農水省統計情報部食鳥市況] 4月8日
kg当たり円、税抜き

	モモ肉	ムネ肉	手羽モ	手羽サ	ササミ
高値	1,036	639	550	600	650
安値	730	392	290	360	350
平均	795	439	-	-	-

※日本食肉流通センター：①数値はすべて記載日中間（1週間分）に収集した累積データをもとに算定しており、直近1週間の状況を示している。②重量ベースでみた価格の分布。代表値は「重量中央値」であり、参考値として「第1四分位値」「第3四分位値」「刈込み平均値」を算定。③収集した取引価格データ（単価・重量）を単価の低いものから順に並べ替えた上で取引重量を累積し、総取引重量のちょうど50%に位置する単価を「重量中央値」。最低価格から順に累積したデータを4等分し、最初の境界に位置する単価を「第1四分位値」3番目の境界に位置する単価を「第3四分位値」という。「刈込み平均値」は、第1四分位と第3四分位の間の重量ベースの平均値（加重平均値）。

食肉業界紙のパイオニア

食肉通信の 専門紙・誌と本

食肉業界のあらゆる情報を迅速・正確に伝えるべく、日刊、週刊、月刊の3紙を定期発行。食肉関連の情報を網羅した週刊「食肉通信」、日々のニュース速報に特化した日刊「食肉速報」、市場分析などテーマ性の高い情報を詳細に掘り下げる月刊「ミート・ジャーナル」を基幹媒体として、食肉に関する専門書籍を多数発行しております。

◆業界動向がデータでわかる 数字でみる食肉産業

生産から流通、販売まで関連分野のデータを集積。B5判。年1回発行。

B5判 472頁 4,191円(送料別)

◆畜産・食肉業界の動向大全 日本食肉年鑑

現状分析と将来の展望、戦略構築に必携の一冊。関係名簿、畜産・食肉需給の動向、食肉流通の動向、食肉加工品関係の売れ筋動向なども収録。年1回発行。

B5判 500頁 14,850円(送料別)

◆食肉販売&経営関連

銘柄牛肉 ガイドブック

隔年刊。全国の銘柄牛肉の品種、飼養管理の方法、生産・出荷の実施主体、食肉処理と出荷・販売先、飼養頭数、ブランドの特徴など最新データを満載。

B5判 240頁 定価2,200円(送料別)

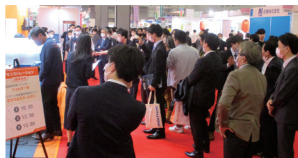
銘柄豚肉 ガイドブック

隔年刊。全国の銘柄豚肉の品種、飼養管理の方法、生産・出荷の実施主体、食肉処理と出荷・販売先、飼養頭数、ブランドの特徴、輸出の状況など最新データを満載。

B5判 240頁 定価2,200円(送料別)

◆イベント

◆国内で唯一、 最大級の食肉総合見本市



食肉産業展

食のグローバル化が目覚ましい発展を遂げる中で、和牛に象徴される日本独自の食文化を守り今後の成長を促すため、多彩な素材食品、加工技術、販売手法、管理システムを一堂に集めて提案いたします。

(HP) <https://www.shokuniku-sangyoten.jp/>

週刊 食肉通信



食肉全般の行政、業界ニュースをはじめ、新製品や食肉店経営のページ、量販店・外食、食肉組合、食肉市場などのニュースのほか、週間・月間市況や全国の食肉市場の牛・豚肉相場、食鳥相場など、国内外の生産から商社、卸、小売まで広範な情報を掲載しています。わが国唯一の食肉専門紙。

発行は毎週火曜日、ブランク判8~12ページ、価格は年間25,000円(税・送料込)

日刊 食肉速報



食肉関連に関する行政、業界の動向をはじめ、国産(牛枝肉・部分肉、豚枝肉・部分肉、プロイラー)と輸入(米国産やカナダ産の牛肉・豚肉、豪州産牛肉など)の相場市況を毎日掲載するとともに、企業情報・企業倒産など日々の業界ニュースをお届けします。

発行は月曜日から金曜日、A4判14ページ、価格は年間82,080円(税・送料込) ※軽減税率対象

月刊 ミート・ジャーナル



食肉の流通チャネルが多様化する中で、その時々のもっとも話題性の高いテーマを多角的視野で捉え、現場をレポート・分析。あわせて食肉・食肉製品など総業の製造・流通・販売の現場ですぐに役立つ技術情報などを掲載する月刊専門誌。

発行は毎月月上旬、B5判120~150頁、価格は年間23,100円(税・送料込)

◆教材&レポート等

◆あなたの常識を強固にする 今さら聞けない肉の常識

平野正男 著
鏡 晃 監

肉はなぜ赤いのか、しゃぶしゃぶがおいしい理由は?など66の常識をわかりやすく解説。

A5判 152頁 定価1,500円(送料別)

◆知識を豊かにする 食肉用語事典〈新改訂版〉

日本食肉研究会編 A5判 506頁 定価7,000円(送料別)

◆~食肉のプロフェッショナルを育てる~シリーズ

牛枝肉・牛部分肉の見方 牛肉の見方を簡単図解

牛枝肉・牛部分肉について、各方面のプロに幅広く取材し、「牛枝肉、牛部分肉のポイント」について分かりやすくまとめた待望の入門書。

B5判 90頁 定価3,000円(送料別)

◆ステーションナリー

食肉手帳 DIARY

毎年発行し好評をいただいている業界人必携の手帳がグレードアップ。機能性、食肉価格などの資料も充実し、日頃の業務をサポートします。名入れも可。

横9.4cm×縦14.5cm 定価990円 ※購入される冊数によって価格は変動します

お申し込みは電話かFAXで
お近くの食肉通信社まで

株式会社 食肉通信社

◆大阪 〒550-0005 大阪市西区西本町3-1-48

TEL 06(6538)5505 FAX 06(6538)5510

◆東京 〒101-0021 東京都千代田区外神田2-14-10

TEL 03(6206)0929 FAX 03(6206)0928

◆九州 〒812-0029 福岡市博多区古門戸町3-12

TEL 092(271)7816 FAX 092(291)2995

※東京事務所は2025年2月10日より上記の新住所に移転しました。電話・FAX番号も変更となりましたので、宜しくお願致します。